

令和4年度 学校経営計画

1 学校経営方針

地域に信頼され、地域に誇れる学校をつくる

- (1) 教職員の総力を挙げた組織的・機能的な体制のもとに実践する。
- (2) 計画的・系統的な指導を行い、「知・徳・体」のバランスのとれた育成を図り、全生徒が「向島中で学びたい」といえる学校をつくる。
- (3) 小中連携教育を基盤とし、カリキュラム・マネジメントの推進による主体性・表現力を育成する。

2 校訓

「強く 正しく 明るく 役立つ人に」

3 学校教育目標

可能性への挑戦

～これからの社会に必要とされる資質・能力の育成を目指して～

学校で育成する資質・能力 → 主体性, 表現力

4 ビジョン（実現しようとする未来像）

■めざす学校像

- 生徒が安心して学べる学校
- 生徒、保護者、教職員が誇りに思い、地域から愛される学校
- 潤いと活気に満ちた学校
 - ・生徒も教職員も笑顔あふれる互いの積極的コミュニケーションのある学校
 - ・すべての教職員が愛情、使命感にあふれ、互いの温かなコミュニケーションのある学校
 - ・すべての生徒が夢を語りあえる豊かなコミュニケーションのある学校

■めざす教職員像

- 生徒に寄り添い、信頼に応えられる教職員
- 学び続ける姿勢をもつ教職員
- 組織の一員として責任と自覚をもち、協働できる教職員

■めざす生徒像

◇志高く挑戦し続ける生徒

- ・将来のなりたい自分、就きたい職業を視野に入れ、具体的な目標をもち、何度でもチャレンジすることができる生徒

◇多様性を尊重し、かかわり合える生徒

- ・それぞれの個性、考え方の違いを共有し、お互いを尊重した上で、よりよい解決方法を協議し、導き出せる生徒

◇失敗を恐れぬ元気さをもつ生徒

- ・何か行動を起こす前に不安をつのらせ、立ち止まったままでなく、自分自身で困難に思い切ってぶつかっていける生徒。

◇新しい発見から学びを深められる生徒

- ・自分が探求したいテーマを見つけ、それに対して、必要な情報を収集し、活用し、考えを深め、仲間と協働することによりさらに探求していく生徒。

5 学校経営目標（中期経営目標・短期経営目標）

■中期経営目標

- (1) 自ら学ぶ力の育成
 - ・主体的な学びを促す授業づくりを推進し、資質・能力の育成を図る。
- (2) 豊かな人間性の育成
 - ・お互いのよさを認め合い、多様性を尊重し、互いを高めあえる集団を育てる。
- (3) カリキュラム・マネジメントによる小中連携の推進
 - ・「しまっ子志プロジェクト」（「しまっ子 学びのプロジェクト」「しまっ子 心のトク徳プロジェクト」）を実践し、小中9年間の系統性を踏まえた「総合的な学習の時間」のカリキュラム・マネジメントを継続する。
 - ・小中連携をふまえ、「防災学習」のカリキュラム・マネジメントを行う。

■短期経営目標

- (1) 主体的な学びを促す授業づくりを推進し、学力を向上させる。

①課題発見・解決学習の単元開発

- ⇒単元の逆向き設計
- ⇒明確で必然性のある課題設定の工夫
- ⇒「本質的な問い」をふまえた授業づくり
- ⇒思考を深める、対話的な学習場面の充実
- ⇒学習のめあて、振り返りと単元毎のまとめの習慣化

②言語活動の充実

- ⇒原稿を読むのではなく、自分の言葉で語れる「自己表現」の場面を設定
- ⇒一人の発表に対して、意見を交換し、各教科で言語活動の充実を図る取組の実施

③生徒指導の三機能を生かした授業改善

- ⇒「自己決定」を行い、自分の考えを表現できる場面を必ず授業に取り入れる。

④基礎基本の確実な定着を目指した教育活動の推進

- ⇒授業におけるドリル学習の徹底
- ⇒e ライブラリー等、ICTを活用した学習の徹底

⑤外国語教育の充実

- ⇒英語能力判定テスト・英検の実施
- ⇒インターナショナルデイの実施
- ⇒電子黒板の活用事業

⑥総合的な学習の時間の推進

- ⇒カリキュラム開発（キャリア教育・国際教育）
- ⇒コロナ禍の中、対応できる実践。
- ⇒サイクリングしまなみ2022等の地域行事と連動したカリキュラム・マネジメント

- (2) お互いの個性を認め合い、互いを高め合える集団を育てる。

①アセスを生かした学級集団づくりの推進

- ⇒年2回アセスを実施し、生徒一人一人の不安、不満に対応できる学級づくり。
- ⇒年2回は、生徒との面談を行う。

②SST を生かして、日常に取り入れる。

⇒SST を生かした学級活動を行い、良好な人間関係をつくっていくきっかけとすると共に、生徒に参画させる。

③道徳の時間の充実、道徳的実践力の育成

⇒道徳の計画的な実施と日常生活への反映を考える。

④生徒指導の三機能を生かした学校行事の実施

⑤自治能力を育成する生徒会活動・学級活動・部活動の推進

⇒自分たちで考え、決めて実行してみる。失敗を生かして改善する体験をできる取組を工夫する。

⇒自分の言葉で、やりたいこと、改善することが言い合え、より高いレベルをめざしていける集団にする。

(3) 志を抱き、自己探究していく「しまっ子 志プロジェクト」の充実

①中学校区としてのカリキュラム・マネジメントを推進する。

⇒小中連携会の充実（ブロック校長会、教頭会、主任・主事、養護教諭、情報担当の連携等）

②中学校区で育てたい資質・能力の育成を核にした小中9年間の系統性を踏まえた鳥合的な学習の時間におけるカリキュラム・マネジメントの推進

⇒15歳の生徒像の共有を図り、そこをめざして具体的な取組を行う。